

群 教 セ	J01 - 01
	平16.220集

友達の考えを尊重しようとする意識を 高める指導の工夫

- 聞くことにポイントを置いた
コミュニケーション活動を通して -

特別研修員 塚越 一穂 (倉淵村立倉淵中学校)

《研究の概要》

本研究は、道徳と学級活動を通して、友達の考えを尊重しようとする意識を高めるための実践的な研究である。具体的には、道徳の時間に読み物資料を通して、友達の考えを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付き、学級活動で友達の考えを肯定的に受け止め、その考えを生かそうとする意識を高めるために、聞くことにポイントを置いたコミュニケーション活動（意見発表会・意見交流会）を行った。

【キーワード： 人権教育 中学校 道徳 学級活動 コミュニケーション 聞くこと】

主題設定の理由

本学級（中学1年生、男子18名、女子12名）は、明るく活動的である。授業においても意欲あり、自分が考えたことを積極的に発言する姿が見られる。しかし、その反面、友達と意見が対立すると、お互いに聞き入れないこともある。また、「この友達はたいした考えは持っていないだろう」と決めつけてみたり、自分とは異なる考えには、耳を貸さなかったりする姿が時折見られる。たとえ、友達の考えを聞いたとしても、自分の考えと異なっていれば、それを認めようとせず、誤った考えであるという意識がある。授業の中でも、自分と異なる考えは参考にならないだろうと思ひ込み、周囲の考えを取り入れずに、学習が深まらないことがある。

その原因として、コミュニケーション能力の不足が挙げられる。積極的に発言し、友達とのコミュニケーションを求めようとする能力は備えているが、相手の考えを理解するために、偏見や先入観を持たずに、率直に耳を傾けようとする意識や相手の考えの良さや独自性に気付き、それを生かし、自分の考えを深めていこうとする意識が不足しているものと考えられる。

そこで、道徳で読み物資料の登場人物の言動について考え、生徒自身の経験を振り返ることにより、自分と異なる立場の人の考えであっても、それを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付かせたい。次に、学級活動 で聞くことにポイントを置いたコミュニケーション活動を行う。学級活動 では意見発表会を行い、自分とは異なる考えの中にも、「なるほど」「その人らしい」と思える部分があるということに気付かせ、友達の考えを自分の考えと同等に大事に扱い、肯定的に受け止めようとする態度を育てたい。そして、学級活動 で意見交流会を行い、自分の考えを深めるには、友達の考えを生かすことが大切であることに気付かせ、友達の考えを尊重しようとする意識を高めたい。

友達の考えを尊重しようとすることは、友達をかけがえのない存在であると認め、個性や自分との違いを含めて、友達の人格を肯定的に受け止めることにつながる。互いの人格を肯定的に認め合うことは、人々に安心感と満足感を与える。安心感や満足感のある生活を送ることは、人々が幸福感に包まれながら生活する権利、つまり人権の保証につながると考える。

以上のような理由から本主題を設定した。

研究のねらい

道徳の読み物資料を通して、友達の考えを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付き、学級活動で聞くことにポイントを置いたコミュニケーション活動を行い、友達の考えを肯定的に受け止め、それを生かそうとすることによって、友達の考えを尊重しようとする意識が高まることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

以下に示す通り、道徳、学級活動、学級活動において、見通し1～3の取り組みを行えば、友達の考えを尊重しようとする意識が高まるであろう。

- 1 道徳の読み物資料で、登場人物の言動を考え、自分自身の経験について振り返ることにより、自分と異なる立場の人の考えであっても、それを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付くであろう。
- 2 学級活動で意見発表会を行い、自分とは異なる考えの中にも、「なるほど」「その人らしい」と思える部分があるということに気付くことにより、友達の考えを肯定的に受け止めようとする態度が育つであろう。
- 3 学級活動で意見交流会を行い、自分の考えを深めるには、友達の考えを生かすことが大切であるということに気付くことにより、友達の考えを尊重しようとする意識が高まるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 全体構想図(図1)

(2) 「偏見や先入観を持たずに聞く」ことについて

自分と異なる立場の人から出た意見は、劣り誤った考えであると思い込み、初めから理解する気もなく聞く耳を持たないのではなく、たとえ、それが自分とは異なる考えであっても、相手の立場に立ち、その考えをより正確に理解しようと、最後まで率直に耳を傾けることである。

(3) 「友達の考えを肯定的に受け止める」ことについて

たとえ友達の考えが自分の考えと異なっていたとしても、その考えは取るに足りない劣った考えであるというとは考えず、その中にある良さや独自性に気付き認めようとしながら聞き、自分とは異なる考えでも有

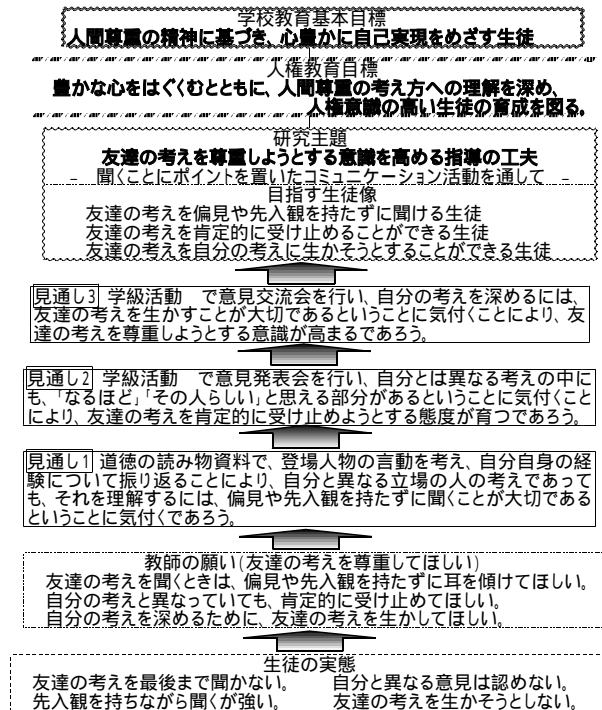


図1 全体構想図

益なものとしてとらえ、自分の考えと同等に大事に扱うことである。

(4) 「友達の考えを尊重する」ことについて

たとえ友達の考えが自分の考えと違っていても、偏見や先入観を持たずに聞き、その考えの中にある良さや独自性に気付き、感情的に否定するのではなく、自分の考えと同等に大事に扱い、さらに自分の考えを深めるために、自分の考えと比較したり融合させたりして、友達の考えの良さや独自性を生かしていくことである。

2 実践の概要及び結果と考察

検証にあたっては、実践前後のアンケート結果、ワークシートや振り返りカードの記述内容、学級全体の発言や活動の変容、抽出生徒A（学級内で積極的に発言する力を持っているが、自分の考えに固執し、友達の意見をやや軽視する姿が見られる男子生徒。以下Aと記述する。）の変容を中心に行う。

(1) 道徳の読み物資料の読み取りや経験の振り返りを通して、自分と異なる立場の人の考えであっても、それを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付くことができたか。（見通し1）

ア 実践の概要

友達に対して偏見や先入観を持ち、わがままを押し通す「ぼく」、 「ぼく」と対立する「啓子」、友達の考えを柔軟に取り入れる「健二」が、班別学習のコースを決めていく過程を描いた内容の読み物資料〔「他に学ぶ広い心 2 - (5)」(資料名「班別学習のゆくえ」 自作資料)〕を提示し、ワークシートを用いて登場人物の言動について考えた。その後、資料の内容と似た生徒自身の経験を振り返った。また、反対に、偏見や先入観を持たずに聞いて成功した経験を振り返り発表した。終末に活動の振り返りを行った。

イ 結果と考察

登場人物の言動の読み取りでは、「健二」や「啓子」を「相手の立場に立って、友達の意見を聞いているのですばらしい」と評したり、わがままを押し通す「ぼく」を「最初から決めつけずに友達の意見をもっと真剣に聞くべきだ」と評したりする意見が、生徒全員の記述に見られ、友達の話の内容を理解するために、偏見や先入観を持たずに耳を傾けることに価値を見出している姿が多く見られた。Aも「健二や啓子はみんなの意見を取り入れているのでよい」、「『ぼく』は『自分勝手なことを言わなければよかった』と、とても後悔している」といった記述が見られ、他の生徒と同様な価値を見出している様子が見られた。

経験を振り返る場面では、「友達の話をよく聞かず、その友達の悪いうわさを立ててしまい、仲が悪くなってしまった」「友達の意見を聞かずに班の生活目標を勝手に決めてしまい、友達に迷惑をかけてしまった」といった意見が出され、それぞれが読み物資料と自分の経験とを照らし合わせることができた。Aは、「友達の注意を聞かずに、竹ぼうきを振り回していたら、友達にけがをさせてしまった」と記述し、自身の経験を真剣に振り返る姿が見られた。

本活動の振り返り（資料1。Aの回答は資料中□□の内数。以下、資料2・4・5・7・8でも同じ。）では、「自分とは違う立場でも、決めつけるべきではない」というように、先入観を持たずに聞くべきだという意見が出た。また、それから一歩進んで、なぜ、決めつけずに聞くことが大事なのかを考え、「決めつけずに聞くと、その話がよく分かる」というように、偏見や先入観を持たずに聞くことが、友達の考えを理解する上で大事であるということに気付いた意見も多く出た。Aも「決めつけずに聞けば、分かり合える」と記述し、先入観を持たずに聞くことが、相手の考えの理解をもたらすことに気

資料1 道徳振り返り (人)

理解につながることに気付く意見 素直に聞けば理解できる(1.5)
理解するためには真剣に聞くべき(4)
先入観を持つべきではないという意見 相手のことを考えて聞くべき(4)
決めつけずに聞くべき(4)
その他 自己主張は控えめにすべき(2)
みんなと仲良くすべき(1)

付いている記述が見られた。

事前のアンケートでは、自分と同じ立場の人の考えには、「先入観を持たずによく聞いている・聞いている」と回答した生徒は多いが、自分と異なる立場の人の意見では、そのように回答した生徒は少なかった。事後のアンケート（資料2）では、自分と異なる立場の人の意見でも、「先入観を持たずによく聞いている・聞いている」と回答した生徒が15人増加した。このように、本活動を通して、友達のことを理解するには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付くことができたと考える。また、その後に行われた実際の班別学習の話し合いにおいても、偏見や先入観にとらわれず、友達の話に率直に耳を傾け、より良い学習にしていこうとする姿が見られるなど、本活動の成果が現れていた。

（2）学級活動の意見発表会で、自分とは異なる考えの中にも良さや独自性があることに気付くことを通して、それを肯定的に受け止めようとする態度が育ったか。（見通し2）

ア 実践の概要

意見発表のテーマは「10年後の倉渕1」〔社会の一員としての在り方 A - (2)〕とした。事前に「10年後の倉渕はどうなっていてほしいか」、その理由や具体策について詳しくプリントにまとめておき、その内容がより多様になるように、さまざまな意見を持った生徒同士で5人1組の班を編成した。本活動ではそのグループ内で意見発表を行った。班のメンバーの発表を聞いて、「なるほど」「その人らしい」と思える考えを「認定証」（「なるほど認定証」と「あなたらしさ認定証」）にまとめ、発表者に手渡すようにした。発表は交替しながら行い、全員に認定証が行き渡るようにした。終末に活動の振り返りを行った。

イ 結果と考察

発表を聞く様子を見ると、自分とは異なる考えであっても、友達の発表を真剣に聞いている姿が多く見られた。発表者に注目し、「なるほど」や「その人らしい」と思える点を聞き逃すまいと、時にはうなずきながら発表に聞き入っている生徒もいた。Aも友達の考えを理解しようと、また、良さや独自性を見出そうと、集中して耳を傾ける姿が見られた。

発表後の認定証の作成では、班員の意見が集約されたプリントに目を通して、もう一度「なるほど」や「その人らしい」と思える点を確認しながら、認定証（資料3）を作成していた。ある生徒は「なるほど」認定証が集中し、ある生徒は「あなたらしさ」認定証が集中するなど、生徒が内容の良さを認める「なるほど」認定証と内容の独自性を認める「あなたらしさ」認定証の2種類の認定証の意味を理解し、使い分けている様子が見られた。記述の内容も友達の考えの良さや独自性を的確にとらえているものが多かった。Aも1人の発表につき、2種類の認定証を作成するには至らなかったものの、必ずどちらかの認定証は作成し、グループのメンバー全員にこやかに手渡していた。また、認定証の記述の内容は「大きな病院が欲しい」（「なるほど」認定証）「鉄道で交通を便利にする」（「あなたらしさ」認定証）など、自分とは違う考えであっても、その中にある良さや発想の独自性に気付き認めようとしている記述が見られた。

本活動の振り返りのワークシートの記述を見ると、「さまざまな考えがあることがわかった」という自分とは異なる考えの存在や考えの多様性に気付いた意見もあったが、「友達の意見は、自分では考えつかない素晴らしい発想だ」という良さや独自性に気付き、積極的に認めようと

資料2 アンケート結果1(人)

自分との立場の相違	違う立場	
	実施時	事後
先入観を持たずによく聞いている	0	3
先入観を持たずに聞いている	4	16
どちらとも言えない	1	8
先入観を持って聞いている	1	4
かなり先入観を持って聞いている	0	0

資料3 「なるほど」認定証

「なるほど」認定証
1年 殿

あなたは「10年後の倉渕」についての意見発表において、

車を運転できない高齢者が無料で利用できる循環バスを走らせてほしい

という発表で、なるほどと思わせたので、ここにそのすばらしさをたたえ、認定証を贈ります。

平成16年11月 日
1年

する意見が多く出た。(資料4) Aの振り返りは、「10年後の倉淵について、みんないろいろな考えを持っていることがわかった」とあり、自説に固執するあまり、友達の意見を軽視するという以前の姿ではなく、そのような考え方も成り立つという寛容的な姿勢が見られた。

資料4 発表会振り返り(人)

他の考えの良さや独自性を積極的に認める意見よく聞く(11)
 友達の発想は素晴らしい(9)
 他の考えの存在や多様性に気付く意見みんなの考えがわかった(4)
 いろいろな考えがあることがわかった(4)
 その他
 人の話をよく聞くべき(2)

事前のアンケートでは、自分の考えと似た友達の意見を「とても・だいたい大事に扱っている」と回答した生徒は多いが、自分とは異なる意見では、そのように回答した生徒は少なかった。事後のアンケート(資料5)では、自分とは異なる意見でも、「とても大事に扱っている・大事に扱っている」と回答した生徒が13人増加した。このように、本活動を通して、自分とは異なる考えであっても、その中にある良さや独自性に気付き、自分の意見と同等に大事に扱い、肯定的に受け止めようとする態度が育ったと考える。また、その後の授業の様子を見ると、友達の発言を軽視するような言動が減り、本活動の成果を感じることができた。

資料5 アンケート結果2(人)

自分の意見との相違	違う意見	
	実施時	事後
とても大事に扱っている	0	4
大事に扱っている	1	4
どちらとも言えない	1	3
あまり大事に扱っていない	1	3
ほとんど大事に扱っていない	3	0

(3) 学級活動の意見交流会で、自分の考えを深めるには、友達の考えを生かすことが大切であるということに気付くことを通して、友達の考えを尊重しようとする意識が高まったか。(見通し3)

ア 実践の概要

意見交流会のテーマは「10年後の倉淵2」とした。見通し2の「10年後の倉淵1」を受け、友達の考えを生かして自分の考えを深める活動を行った。「意見交流プリント」(資料6)を用い、参考になりそうな友達の考えを選択し、その考えと自分の考えを融合したり比較したりしながら自分の考えを深めていった。その際、1回目の交流では、自分の考えを具体化するために自分と似た意見を選択し、2回目は新たな考えが生まれるように自分とは異なる意見を選択した。終末に活動の振り返りを行った。

資料6 意見交流プリント (Aの記述より)

「10年後の倉淵2」意見交流プリント
 1年・氏名(A)

	(自分の考え)	(友達の考え)	(深めた考え)
進め方 自分の考えを切り取って はろう。	現状を維持していけばいいと思う。人口が増えたら、自然がどんどんなくなってしまうから、開発しないほうがよい。	自然をそのまま保ちながらも、活気がある場所であってほしい。このままではさびれてしまうので、観光に力を入れれば、活気が出るのではないかな。	人口は現在と同じくらいで、自然は大事に残す。人口はこのままだと減ってしまうので、自然を生かした観光に力を入れるとよい。また、村に伝わる伝統や昔からある名所をしっかりと残していくとよい。
自分と似た友達の考えを切り取り はろう。	やはりあまり変わらないでほしい。人口は現在と同じくらいがよい。自然もこのままがよい。しかし、ほうっておいたのでは、人口が減ってしまう。人口を維持するには、アパートなどを今ある平地につくり、生活しやすいように大きな病院と大きな店を1つずつ建てるとよい。倉淵は自然が豊かなので、その自然を生かしながら農業をしたい人を集めたり、観光地化したりして、村外にPRできるとうい。また、伝統行事をしっかりと受け継ぎ、次の世代に伝えていきたい。	開発を進めたほうがよい。このままでは村がどんどんさびれてしまう。それにはまず、産業を発達させるとよい。そうすればたくさん人が移り住むと思う。そして、人が増えたら大きな病院や大きな店を建てるとよい。そうすれば便利になるので、若い人たちが村に住み続けると思う。	(別の友達の考え)
の意見を参考に自分の考えを深めて に書こう。			
自分と異なる友達の考えを切り取り はろう。			
の意見を参考に自分の考えをさらに深めて に書こう。			

イ 結果と考察

1回目の意見交流では、自分に近い意見を選んだため、自分の考えをより具体的にしたり、理由を明確にすることはできた。しかし、発展した考えになったり、新しい考えを生み出したりの記述はあまり見られなかった。2回目の交流では、自分とは対照的な考えを選んだため、それぞれの良いところを生かした折衷的な意見やこれまでになかった新しい意見としてまとめている様子が見られ、考えをより深めていた。Aの記述(資料6)を見ると、交流前は「開発はせず、現状を維持する」という考えであったが、自分と似た意見を選択した1回目の交流後は、「現状を維持するには、伝統行事や観光に力を入れたほうがよい」という具体策をまとめている。自分とは異なる意見を選択した2回目の交流後は、「自然を残しつつも、住み良い場

所にすべきである」という折衷的な考えへと変化していき、自分とは異なる考えを生かし、さまざまな角度から地域を見つめ、自分の考えを深めていく様子が見られた。

終末の振り返り（資料7）では、「友達の考えに感心した」という見通し2のねらいに近い意見も出たが、「自分とは違う考えを生かしたら、より良い意見になった」というように、自分の考えを深めるには、自分の考えと違っていても、友達の考えを生かすことが大切であるということに気付いた記述が多く見られた。Aも「自分とは異なる意見のおかげで考えが深まった」と、自分とは異なる考えの大切さを実感する意見を述べていた。

事前のアンケートでは、自分の考えと似た友達の意見を「とても生かそうとしている・生かそうとしている」と回答した生徒は多いが、自分とは異なる意見では、そのように回答した生徒は少なかった。事後のアンケート（資料8）では、自分とは異なる意見でも、「とても生かそうとしている・生かそうとしている」と回答した生徒が18人増加した。このように、本活動を通して、自分の考えを深めるには、友達の考えを生かすことが大切であるということに気付くことができたと考える。また、その後の学級会等の様子では、友達の意見を生かしながら、より良い意見を持つようとする姿が見られ、友達の考えを尊重しようとする意識の高まりを実感することができた。

研究の成果と今後の課題

1 研究のまとめ

道徳の読み物資料を通して、登場人物の言動について考え、自分の経験を振り返ることによって、自分と異なる立場の人の考えであっても、それを理解するためには、偏見や先入観を持たずに聞くことが大切であるということに気付くことができたと考える。

学級活動の意見発表会で、自分とは異なる考えの中にある良さや独自性に付き、それを認定証にまとめ、生徒相互で授受することによって、友達の考えを自分の考えと同等に大事に扱い、肯定的に受け止めようとする態度を育てることができたと考える。

学級活動の意見交流会で、自分の考えを深めるには、自分の考えと友達の考えを融合したり比較したりすることによって、友達の考えを生かしていくことが大切であるということに気付くことができたと考える。

「友達の考えを尊重しようとする」ことを「友達の考えを偏見や先入観を持たずに聞き、肯定的に受け止め、自分の考えを深めるためにその考えを生かそうとする」と定義するならば、本研究を通して友達の考えを尊重しようとする意識を高めることができたと考える。

2 今後の課題

今後は本研究で高まった「友達の考えを尊重しようとする」意識が、友達以外の他者に対しても向けられるように支援していきたい。また、「考え」の尊重にとどまらず、人格の尊重にまで広がるように支援を続けていきたい。

参考文献

- ・群馬県教育委員会 編・発行 『群馬県人権教育推進計画（学校教育・社会教育）』（2004）

資料7 交流会振り返り（人）

友達の考えを生かすことの大切さに気付く意見
 友達のおかげで考えが深まった（7）
 違う考えでも生かせば考えが深まる（16）
 友達の考えの良さや独自性に気付いた意見
 友達の考えに感心した（3）
 友達の考えは個性的だ（2）
 その他
 自分の意見を理解してもらい安心した（2）

資料8 アンケート結果3（人）

自分の意見との相違	違う意見	
	事前	事後
とても生かそうとしている	0	4
生かそうとしている	1	15
どちらとも言えない	8	8
あまり生かそうとしていない	17	3
ほとんど生かそうとしていない	4	0